

第1回分科会活動報告

日 時：2013年4月26日（金）

場 所：法政大学 小金井キャンパス

出席者：32名（内訳：正会員15名、賛助会員他：17名）

記録者：日本大学理工学部 惠藤 浩朗（第一分科会運営委員長）

テーマ：ICTの力を活かす！（CMS, eポートフォリオ, 剽窃検地システム）

1. 研究活動内容

(1) 会場校ご挨拶

法政大学 情報メディア教育研究センター 所長 八名氏

(2) アイスブレイク

(3) ご講演

テーマ：「授業支援システムを中心としたITを活用した教育の現状と課題」

講演者：法政大学 情報メディア教育研究センター 教授 常盤氏

法政大学の小金井キャンパスの概要説明にはじまり、情報メディア教育研究センターの変遷、また小金井キャンパスでは全学的にノートパソコンを貸与（7000名）し、学内全域でLAN接続可能な設備を有している旨、説明があった。また2002年より授業支援システムの使用が始まり、2006年には学部全体に導入され全学展開に至った。そのときの啓蒙活動にはなみなみならない努力が必要で11学部の教授会で説明



会を実施すると共に、webでチュートリアルを示した。学生にはガイドブックを配布し集中講習会も実施された。この授業支援システムはカスタマイズが容易であるという理由からオープンソースのもので導入された。昨年度（2012年度）の実績で22000名が利用しており、80%を超える利用率を誇っている。また講義でtwitterや簡単な小テスト、ラーニングポートフォリオ、講義前にオンラインテキストによる予習内容を投稿させると共に、そのオンラインテキストの剽窃具合も同時にチェックしている。また紙を使用しているのに授業支援システムを活用可能なシステムを富士ゼロックスや兼松と共同研究しており、講義名などの情報を事前に透かし入りの印刷で入れた用紙を活用するなどしている。またデジタルで提出されたファイルについては採点后、システムを通じて学生へ返却している。本システムで活用している剽窃チェックはコピペルナとは異なりturn it inにより各種情報からの引用が分かるので有効である、など様々な法政大学におけるICT利活用の現状をお話いただくと共に、ICTの力を借りて、教職員の手間を省き、本来実施すべき教育を考える時間が得られるという点で本当に良いという話で講演を終了した。

(4) ご講演

テーマ：「ePortfolio 全学展開への序章～ゼミ募集システムの開発」

講演者：法政大学 情報メディア教育研究センター 助手 宮崎氏

オープンソースの e ポートフォリオシステムである mahara を活用した事例について紹介を受ける。現在、e ポートフォリオシステムは書く大学でも注目されており「大学力を高める e ポートフォリオ」という書籍もある。mahara ではショーケースという機能を活用すると情報を蓄積しておくでプレゼンテーションページなどを簡単に作れる。そこで本取り組みでは「ゼミ募集」にポートフォリオを活用した事例が示された。具体的には 850 名の経済学部の学生を 70 ものゼミ数で上手に選考させる必要があり、これまではゼミ紹介冊子の作成、ゼミ応募票をカードで提出する方法で実施されていたが、事務処理作業が煩雑で、手書き応募票が不明瞭であったことから電子化して実施しやすい手段が開発された。紙媒体は廃止し、電子化することを基本とし、一部、決定事項の公表など事務手続きに関する所で紙媒体が残ったが、基本的には電子化された。

法政大学では学生に関する各種情報を蓄積、共有、開示しており、開示することで学生自身による気付きをもとにした学習効率の向上が望めたとのことでした。その上で mahara というツールはドラッグアンドドロップで使えるためかなり使い勝手は良く、学生達は mahara 上で交流を広げ、話したい心理と聴きたい事もあり、特にグローバル教養学部などではかなり積極的に利用されている。また mahara をもとにしたルーブリックも開発しており学生の自己評価及び相互評価、語学力の達成度、複数のルーブリックを管理できるように設計しているとのこと。また e ポートフォリオ活用における課題として、ただ導入させるだけでは全く意味がなく、自己評価方法が明確化しているのか、また就職活動で企業は受け入れているかといったところに問題を残すが、まずは e ポートフォリオを見せ慣れさせることが重要と考えており、ポートフォリオは生涯的に作り続けるものである、との話を伺った。

(5) 施設見学

GBC (Glass Box Office Hour Centre)、電子透かしを活用したシステムなどを見学した。

(6) 意見交換会

テーマ：「夢の授業支援システム」(ワールドカフェ形式)

上述の 2 件の講演内容を受けて、どんなシステムが大学にあれば我々は幸せか?といったことを技術的な問題、経済性などを一切考慮せず、自由な発想で「こんなシステムがあったら良いな」と思える「夢の授業支援システム」について、参加者全員でワールドカフェ形式により話し合いました。



具体的には様々なシステムだけではなく、各種作業の自動化であったり、学生サポートの機能として学生と教員のコミュニケーションを確保する機能や学生の様々な疑問を瞬時に解決してくれるシステムであったり、どれも行き届いたサービスを念頭とした意見が数多く出ました。また誰でも使えるシステムであってほしいというユーザビリティに関する意

見や、思考しただけで講義資料が自動的に、かつほぼ同一フォーマットで作成、公開されると良いなどといった本当に夢のような授業支援システムに関する意見や希望が発表されました。

(7) 懇親会

2. まとめ

とても内容の濃い有意義な例会となりました。ご紹介いただいた各種 ICT の活用事例は、どの大学でも利用したいと感じたものではなかったでしょうか、当然、導入には費用対効果、大学内でのコンセンサスの問題など、様々な問題が立ちはだかるものと思いますが、価値あるシステムになるかどうかは、学内でどれだけ利用されるかとイコールだと思います。そういう意味では法政大学は上層部の方はこうした ICT 技術の大学業務への適用について、本当によく理解されていて、実行力もあり、また各教員もその方針を理解し現実のものとしていることから、本当に素晴らしい大学だと感じました。この回の分科会の内容が皆様の大学の各種システム導入の一助となることを切に願うと共に、皆様で話し合った「夢の授業支援システム」を実現させる組織として、CS 研第一分科が世界で一番近い位置にいるのではないかと思います。是非とも CS 研で「夢の授業支援システム」が現実のものとなるよう活動していけたらと感じた分科会でした。参加者の皆様、ありがとうございました。

以 上